

部門	受賞者及び取組の概要
学生部門	<b>安曇野市立豊科南小学校</b>
	<b>【SDG s の達成に向けた子どもが主人公の児童会活動と環境学習】</b> 児童会活動では、11 の委員会が貢献する SDGs のゴールを決め活動。環境ビオトープ委員会の『拾ヶ堰クリーン大作戦』は、本年度で 26 回を迎えた地域の堰を守る伝統行事。5 年生の総合的な学習の時間では、学校ビオトープの環境保全活動やみんなの憩いの居場所づくりプロジェクトを発足し、子どもたちが主体的に参画。ユネスコスクールとして ESD の取組を継続。
	<b>諏訪市 子どもゆめプロジェクト</b>
	<b>【～すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」～】</b> 学校の枠や年齢の枠を超え、産・学・官・民が連携し、イベントではない探究型の学びのプログラム「子どもゆめプロジェクト」を独自開発。小・中・高・大学生が、自分たちが住みたいまちづくり実現のため、SDGs の観点から一緒に考え、フィールドワークなどを通して、自分なりの問いを立て、協働しながら自分なりの納得解を見つけ、市長・教育長へ提言。
	<b>長野県松本美須々ヶ丘高等学校 総合的な探究の時間 こども科学教室チーム</b>
	<b>【「こども科学教室」「サイエンス☆マルシェ」を通して SDGs を達成できる人材を増やそう】</b> 幼少期より科学に興味関心を持ってもらえれば、自ずと SDGs の目標を達成できる人材が増えると考え、『こども科学教室』を企画。高校生が授業の中でおもしろいと思った内容をこども向けにアレンジして指南。また、2024 年より有料の科学ワークショップ『サイエンス☆マルシェ』を企画。資金確保と企画運営が循環して行われるため、持続可能な取組を実現。
	<b>白馬村立白馬中学校 SDGs サークル</b>
	<b>【白馬の水をみんなに ～my mizu プロジェクト～】</b> 無料で給水できるスポットが分かるアプリ「my mizu」を白馬村に広げるため、村役場の方と協力しながら活動。給水パートナーやマイボトル利用者を増やすための取組を実施。給水スポットは世界で 20 万箇所以上、アプリ登録者数は 50 万人以上。マイボトルに給水することでペットボトルゴミを減らし、CO <sub>2</sub> やマイクロプラスチックを削減。
	<b>松本市立丸ノ内中学校</b>
	<b>【松本市へサニタリーボックスの設置と工夫の提案】</b> 松本市の公衆トイレにサニタリーボックスを設置してほしいという願いから、市内の公衆トイレの調査、京都市の観光トイレの現地調査、協立病院の医師へのインタビュー、観光客や市民へのアンケートを基に分析。その結果から、サニタリーボックス設置の必要性や課題について、設置に向けた新たな提案などを松本市に提言。
	<b>山ノ内町立西小学校</b>
	<b>【いつまでも 住み続けたい町を どうつくる？】</b> ESD 指定校として「持続可能な社会の創り手」育成を目指し、「志賀高原ユネスコエコパーク」での環境教育や地域産業・文化を基盤とした体験学習を実施。児童が自ら課題を発見し主体的に行動できる力を育む教育環境づくりを推進し、地域の持続可能な発展に貢献できる人材を育成。

部門	受賞者及び取組の概要
企業・団体等部門	<b>株式会社グリーンベネフィット</b>
	<b>【「木の糸」と県内地産物の連携による SDGs 活動】</b> 根羽スギの間伐材から生まれた天然繊維「木の糸」は、環境に優しい和紙糸で、厳しい採用条件をクリアし、2025 年大阪・関西万博の公式ユニフォームに採用。県内特産品と連携し、持続可能な商品化を推進。SDGs 活動の認知と経済効果による継続性を目指し、ブランド名を「NAGANO」として、自然豊かな長野から世界へ発信。
	<b>ママフェスまつもと</b>
	<b>【『いつか誰かが』じゃなく、今、私たちが — 育休ママが動かすまちの未来 Machikara マルシェ】</b> 松本市中心街の空洞化等を背景に、育休中の母親たちで「Machikara マルシェ」を立ち上げ。旧 PARCO 前の公共空間を活用し、商店街・企業・行政と連携。地元事業者の出店や託児・授乳スペース、ワークショップを設け、子育て世代や観光客が交流できる場を創出。地域資源を活用した持続可能で再現性の高いモデルとして展開。
	<b>南信州広域タクシー有限会社</b>
	<b>【ゼロカーボン、その一歩を公共交通から】</b> 公共交通の脱炭素化により CO <sub>2</sub> 削減による地球温暖化防止や大気汚染改善、住民の健康保護に寄与。EV や再生可能エネルギー導入で持続可能な交通インフラを確立し、地域ブランドや観光価値の向上に貢献。国のカーボンニュートラル政策や飯田市のゼロカーボン宣言に対応し、協働することで、運輸業界としての社会的責任を遂行。
	<b>明和工業株式会社</b>
	<b>【こどもたちのみらいのために（For the Future of Children）児童施設への寄贈と整備】</b> 物が溢れかえる世の中でも、すべての人や家庭が必ずしも満足に必要な品を手に入れているとは限らないことから、一般家庭で不要になった物を収集・清掃整備し、必要な方々に渡して使ってもらふ活動を実施。この活動を通して、物を大切に使う心を伝えることにも貢献。
	<b>Re:collection NAGANO 実行委員会</b>
	<b>【良いものを長く使う ～衣料から始めるゼロカーボン～】</b> ファッションを通じて「つくる責任・つかう責任」を考える地域発のサステナブルプロジェクト「Re:collection NAGANO」を発足。廃棄予定の衣服や資材をリユースし、地元若者やクリエイター、企業、教育機関と連携して新たなファッション価値を創造。循環型の衣服を着用したモデルたちが SDGs の理念を表現し、来場者に行動変容を促すファッションショーも開催。